令和6年第1回議会活性化特別委員会会議録

1. 日 時 令和6年4月18日(木)
2. 場 所 白井市役所本庁舎4階 大委員会室
3. 議 題 (1) 議会改革に係る検討事項について
4. 出席委員 長谷川 則 夫 委 員 長・小田川 敦 子 副 委 員 長
秋 谷 公 臣 委 員・柴 田 圭 子 委 員
古 澤 由 紀 子 委 員・石 井 恵 子 委 員
伊 藤 仁 委 員・田 中 和 八 委 員
平 田 新 子 委 員・徳 本 光 香 委 員
荒 井 靖 行 委 員・石 原 淑 行 委 員
久 保 田 江 美 委 員・石 田 里 美 委 員
武 藤 美 砂 子 委 員・根 本 敦 子 委 員
5. 欠席委員 広 沢 修 司 委 員・岩 田 典 之 議 長
6. 会議の経過 別紙のとおり
7. 議会事務局 局 長 松 岡 正 純
主 査 補 會 卓 也
主 事 金 子 直 史

委員長の挨拶

○松岡正純議会議務局長 定刻となりましたので、始めさせていただきます。

まず、会議に先立ちまして、長谷川委員長より御挨拶をお願いいたします。

○長谷川則夫委員長 皆さん、おはようございます。先日は非常に暑くて、白井市でも何と31度を記録したという報告がありました。もう真夏日という状態ではありますけれども、またちょっとここへきて温度が下がっていますので、体調管理にはくれぐれも御注意いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○松岡正純議会議務局長 ありがとうございます。

それでは、委員会会議につき、議事等につきましては長谷川委員長をお願いいたします。

会議の経過

開会 午前10時00分

○長谷川則夫委員長 ただいまから、令和6年第1回議会活性化特別委員会を開催いたします。

ただいまの出席は16名です。広沢委員から欠席の届けが出ておりますので報告いたします。委員会条例第16条の規定により定足数に達しております。これより令和6年第1回議会活性化特別委員会を開会いたします。

本日の会議は、お手元に配付の議題のとおりです。

(1) 議会改革に係る検討事項について

○長谷川則夫委員長 日程第1、議会改革に係る検討事項についてを議題とします。

前回に引き続き協議を始めますが、まず皆様、議会運営委員会の中の「議会改革取りまとめ」というところをタップしていただいて開いてください。そこに前回の……。

○小田川敦子副委員長 早いです。ちょっとゆっくり。

○長谷川則夫委員長 開きましたでしょうか。

○古澤由紀子委員 まだ。

○小田川敦子副委員長 まだです。

○長谷川則夫委員長 開いてください。特別委員会の中の議会改革。

○古澤由紀子委員 全員協議会で協議ということ。

○柴田圭子委員 特別委員会のこの間開いたのじゃない。

○長谷川則夫委員長 特別委員会の中の議会改革特別委員会を開いていただいて、その本棚の中にある「議会改革取りまとめ」というところですよ。

○伊藤 仁委員 全員協議会じゃなくて特別委員会の中。

○長谷川則夫委員長 その表の中に、1-1、1-2、1-3、2-1、2-2、2-3、3、4というふうになっています。開きましたでしょうか。大丈夫ですか。

〔「はい」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 そこで、前回のところを確認させていただきたいと思います。2-1、2-2を同時に採決いたしましたので、皆さんのほうで非常に分かりにくかったという声をいただきましたので、確認をさせていただきます。一応「2023年12月11日をもって引き続き検討しないこととする」と備考には書いてありますけれども、前回の会議の中で、ユーチューブに関してはやらない。それから議会中継及び録画配信の見直し、2-2のところが決めたかどうか分かりにくかったというお話がございましたので、皆さんのほうで録画配信、特に特別委員会についての録画配信、それから、2-2のほうは中継中の字幕スーパーというところも入っていますので、これについて検討しないということで2つ一緒に議決しちゃいましたので、よろしいかどうかの確認をさせていただきます。大丈夫ですか。

小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 2-2の議会中継と録画配信の見直しというのが、私たちの会派から提案をしているので、もう少し状況を確認したいと思います。

まず議会中継に関してなんですけれども、議会中継に関してはこの特別委員会じゃない違う会議でもう決定がなされていたかと思うので、まずそこを確認したいと思います。

○長谷川則夫委員長 今日議長がいらっしゃらないんで、ほかの会議の中というのは全員協議会の中で、全員協議会を中継するかというところで話合いがなされています。それで、全協の中でもやはりこれについては現状どおり中継をしないということで決まっておりますので、確認をします。

以上です。

小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 議運のほうも確認していたと思うので、そこもお願いします。

○長谷川則夫委員長 じゃあすみません、議運のほうは柴田委員長がいらっしゃるんで、お願いします。

○柴田圭子委員 議運のほうも、要は議会日程などを調整することが主なので、市民にあまり関わりがないから不要であるということになりました。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 そうすると、議会中継はここに提案しているけれどもほかでも決まってしまったので、どうするかというふうにここで採るまでもないということになってしまいますが、録画配信の見直しということになると、具体的には常任委員会と特別委員会の録画配信をどうするかということの検討を進めるか、今委員長が皆さんに確認を求めたという理解でよろしいですか。

○長谷川則夫委員長 このところに入っている議会中継、録画配信に関しては、本会議及び常任委員会、特別委員会になります。ですから、そのほかの議運ですとか全協はここには含まれていないという解釈でございます。よろしいですか。

柴田委員。

○柴田圭子委員 議運で、常任委員会については今既に配信しているんですよね、だったら録画配信を検討してもいいんじゃないですかという意見が出ていたと思います。だから全協とか議運は駄目だけど、特別委員会については触れていません、常任委員会についてはたしかそういうふうな意見が出て、いいんじゃないということで終わっていたと思います。

○長谷川則夫委員長 それは議運のほうですか。

○柴田圭子委員 はい、議運のほうです。議運の検討報告の意見は忘れちゃったけれども、そういうふうに、たしか石井委員……。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 そう、私も委員会は録画配信を進めていいんじゃないかという記憶が実はあったもので、そこを確認したんですけれども。そうするとここでどうするかというのは、常任委員会のほうは議運のほうで進めていくということになれば、特別委員会の録画配信をどうするかというのも引き続きこちらで検討をどうするかというふうな確認でよろしいですか。

○長谷川則夫委員長 暫時休憩します。

休憩 午前10時06分

再開 午前10時09分

○長谷川則夫委員長 解きます。遡って解きます。

今言われたように、ちょっとこれは、今日議長がお休みなので、どちらで扱うかについては結論が出ないんです。ただ私のほうは、もし常設の委員会については議運でやるとなっているとなるところから外れるという認識になりますから。

○小田川敦子副委員長 保留ですよ。

○長谷川則夫委員長 じゃあ保留にしておきますか、これ。

○石井恵子委員 ちょっと待ってください。特別委員会は特別委員会なんですよ。決めたことは決めたことなんですよ。ちゃんと決を採って前回決めているんですよ、ここまで。前回ここまで決めたものを今ここで保留にしますかと、それはいいんじゃないですか。

前回の話合いで、やはりユーチューブというのは皆さんの中でちょっとこれはよくないよねという話になったと思うんです。今、小田川副委員長はいろいろおっしゃいましたが、この中に、やはり要旨の中にユーチューブを活用してというのがあから、これはやめましょうということで決を採った

んですよ。一回決めたことは決めたことで、勝手に保留なんかあり得ないと思います。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 何というんだろう、今までの特別委員会の協議の中で、要旨に書いてあるとか理由に書いてあるとかとなっても、やはり題名に書いてあることで検討しようというふうに戻されたこともありましたので。私はこの間の決のときに、ユーチューブというくくりの中でどうしますかというふうに皆さんに諮られたという印象がやはり残っているんですよね。よくよく見たら、議会中継と録画配信というのとはユーチューブというものは、題名としては別物のだけれども決は一緒に採ってしまったというところはやはり納得できないなという気持ちはあります。

ですから、今日委員長が細かくその部分を確認して下さったということは本当にありがたいなと思うので、改めて題名に沿って審議をどうするかというのを決めて、確認をしていただきたいというふうにお願いしたいと思います。

○石井恵子委員 今、あれですよ、協議中ですよ。

○長谷川則夫委員長 うん。

○小田川敦子副委員長 まだ協議中なの。

○石井恵子委員 だからちょっと言わせてもらっていいですか。

○長谷川則夫委員長 どうぞ。

○石井恵子委員 やはり特別委員会を全員で特別委員会にしようねとやって、ここはもう決で決定する場所だよと、きちんと議事録も残るよと、正式なものなんです。だから今日欠席している人も正式に欠席届を出している。非常に重たいんです、特別委員会というのは。そんな軽く一回決めたことをもう一回考え直してくれというのはおかしいと思いますよ。

であるならば、出し直せばいいですよ。これは題名がこうで、要旨が自分が思ったのと合っていないというのであれば、私たちは要旨を含めてここでは検討しないことにするというふうに一回決めたわけですから。それで提案者のほうが、いや、そうじゃなくて本当はこうだったというのであれば、また違うときに、今回ではなくて、時期を改めて出し直せばいいと思いますよ。言葉も文言をもう一回考え直して。一回やはり決めたことは決めたこととして進まない、これはあまりよくないと思います。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 今、小田川副委員長がおっしゃったのは多分、というか、別にユーチューブはやらないということになったと私も認識しているし、それを決めたこと、その項目は決まったんで、別にそこを覆そうという話が出ているんじゃないと思うんですよね。それ以外の部分が、さっき言ったように、議運の担当なのかとか、本当は全部一括にすればいいと私は思うんですけれども、常任委員会とか議運とか全協とか特別委員会とか、全部の録画配信をそれぞれどうするかと話し合っているからややこしくなっていて。その部分については議事録を確認すればいいと思いますけれども、きちんと

話し合っただけで結論が出ていないんじゃないかという意見だと思うんです。

だから、出た部分そのままでもちろんいいけれども、もう一度出ているんだから話し合っていない部分、決めていない部分はしっかり話して決めればいいんじゃないかと思います。

○長谷川則夫委員長 すみません、今、石井委員から休憩中というお話が出たんですけれども、休憩中、遡って解いていますので、もし皆さんで意見交換をしたいということならば休憩にして再度進めますけれどもよろしいですか。

〔「はい」「そのままでいい」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 じゃあ、暫時休憩しながらフリートーキングという形で。

休憩 午前10時14分

再開 午前10時28分

○長谷川則夫委員長 皆さんから御意見をお聞きしましたので、会議を再開します。

皆様からいろいろ御意見出ましたので、決定事項は決定事項として、今、理由の中に挙げられているところに関しては、改めて提案者のほうから議長宛てに提出していただきたいと思います。よろしいですね。

○小田川敦子副委員長 はい。

○長谷川則夫委員長 それでは、今日の議題に入ります。

○柴田圭子委員 再開しているんですか。

○長谷川則夫委員長 よろしいですね。

○小田川敦子副委員長 再開しましたか。

○長谷川則夫委員長 再開します。

小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 話を進めてほしいというのはごもっともだと思いながら、私も最初にそれは言ったつもりだったんですけれども、2-2の項目についてどういった形で、皆さんと共通認識を持たないとほかの会議での検討に触るなどと思って話をさせていただきました。

なので、改めてここで確認したいのは、全協と議運の議会中継は検討は却下ということ。けれども、録画配信の部分では、現在配信しているものに関しては議運のほうで引き続き検討していくというふうな理解で私はいますので、特別委員会としては2-2は却下だけれども、議運のほうの検討は引き続きという点を確認して、先に進めていただきたいと思います。

○長谷川則夫委員長 この委員会でないんでちょっと私のほうから回答できないんですけれども、よろしいですね。

○小田川敦子副委員長 認識の確認です。

○古澤由紀子委員 よろしくない。

○石井恵子委員 全然違うよね。

○古澤由紀子委員 今、小田川副委員長がおっしゃった見解を、皆さんもう一回言ってくださいといったら言えますかね。

○平田新子委員 言えません。

○古澤由紀子委員 統一見解がここで取れていないと思いますよ。そういうことを繰り返しているのが今日のような事態になるとと思いますので、決定事項は委員長が整理をして、どの委員も共通認識を持てるように、最後にきちんと報告、何といたたらいいんでしょうか、皆さんに伝えていただきたいと思いますが、どうでしょう。

今、小田川副委員長がせっかくおっしゃったけれども、そのような認識をここに出席している委員が全部持てるかといったら持っていないと思いますが、いかがでしょうか。

○長谷川則夫委員長 私からは確認できないのでということを行いましたけれども、柴田委員長のほうから、録画配信、今映像中継しているのを録画配信にするという検討事項については議運で検討するという事になっていますか。

○柴田圭子委員 これもサイドボックスに載っています。議会改革に係る検討事項の議運のところですね。その検討結果の一覧表がありますので、それを見ていただければ都度検討結果は載っかっています。それと、あと議運の報告は必ず全協の場とかでしていると思うので、それで言っていると思います。議運のほうの検討結果の一覧を見ていただくと載っていますので、議運はそういう対応です。

だから、何回も言いますが、今、既に中継しているものについてはあるものがあるんだから、それを録画配信することについては改善できるのであれば検討してみるということで、11月17日、随分昔ですけども、そういうことで落ち着いて、それ以降何もしていませんけれども、そういうことで一応落ち着いています。

○長谷川則夫委員長 じゃあ結論から言うと、今、生中継をしている委員会中継、常任委員会の委員会中継については今後も検討していくという結論になっているということによろしいですね。ということですが、議運のほうで。

○柴田圭子委員 議運ね。全協はちょっと分かんない。

○長谷川則夫委員長 よろしいですか。

○柴田圭子委員 全協のほうは見てみないと分かんない。

○長谷川則夫委員長 じゃあすみません、確認が終わりましたので、順番の1-1、1-2、1-3から入りたいと思います。

各会派から出されている説明がまだでございますので、まずは一番上のNew Waveしろいのほうから説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

平田委員。

○平田新子委員 着座のままでいいですよ。

○長谷川則夫委員長 どうぞ。

○平田新子委員 特別委員会等を組織して検討する事項という、その1-1の部分を、もう随分前のことでもあり、読ませていただきます。現在、録音、文字起こしには多大な時間を要するため、AIによる議事録作成であれば大筋即日中に完成する。その効果としては、1、議会だよりに最終日の議案、討論なども掲載できるようになる、2、議会事務局の業務効率化が図れるといったメリットが挙げられる。

AI議事録作成に至るプロセスでは、数年間の議事録を読み込ませ、白井市独自の辞書として認知させ、翻訳を最小限に抑えるための準備が必要となるが、運営面のコストについては、最新自治体の実績では、文字起こしの場合とほぼ同等であることを確認している。

ということで、以前議会だよりのほうで取手市に研修に行ったということは、後でまたお時間をいただければ御説明したいと思います。

それで、資料、特別委員会の資料1というのを見ていただきたいんですけども、特別委員会の3つ目になります。資料1、これは3つの会派で提案していて、3つの会派で分担しながら調べたものですが、私のほうからはAI議事録を議会活性化に向けて導入するにはどういうところを検討しなくてはいけないかということをもとめております。

項目としては、前提条件、まず第1がセキュリティです。情報漏えいなどの危険性を回避すること。それからカスタマイズ、これはさっき申し上げた、白井市の何年か分の議事録を読み込ませて、例えば、「神々廻」という漢字が間違わないで出てきたり、人の名前が間違わない出てきたり、白井市にカスタマイズするという。その次の正確性、精度を上げるということは、さっきのカスタマイズも含めて、聞いた文字が漢字になったり出てくることで、その確実性というところでは業者によっていろいろ違うので、そこはきちんと文字認識の率は確かめなきゃいけないということになります。

それから、次は費用対効果ですけれども、導入するときのイニシャルコスト、運営するときのランニングコスト、この2つにつけて、例えば機械を入れて翻訳するという形もあるし、アプリを入れて翻訳するという形もありますし、本当にコストは様々ですのでこれは検討しなくてはいけない。

それから、議員よりも事務局のほうに負担をおかけするようなことがありますので、そういった作業の業務に関するコストも時間も検討しなくてはいけない。

それから、環境設定として、多分今議場とかここのマイクは性能がいいのでこのままいけるのではないかと思いますけれども、ウェブ環境とか録音環境とか、そういったところも見なきゃいけない。

それから、今言ったからあしたからということではなく、予算とかそういうことの時期が、タイミングがありますので、導入時期もしっかり検討する必要があるし、導入前にデジ庁のほうで何でも入れる前に試してみなさいと言っていて、今執行部のほうでもいろいろ試していることがあるんですが、

試した上で本格導入を決めるというプロセスは国のほうでも認められていますので、そういうところを大事に皆さんに検討していただきたいと思っています。検討するかどうかを決めることから入るんでしょうけれども。

機能としては、議事録を作るに当たっては、文字起こし、編集、結局切り取ったり動かしたりという編集機能、それから、議事録の検索機能、以前作った議事録を再度見たりということもできますし、オンライン会議、結局外からの発言なんかも連携して取り込んだりができる。自動要約ということは100文字のものを30文字に要約すると、そういったことですが、これは白井市議会に何が必要かということで、日本語のみで多分大丈夫だと思いますので、多言語の翻訳機能なんかは要らないという、そういうところも皆さん見ていただきながら、本当に日進月歩でどんどんそういうのが出てきていますので、もし導入するという皆さんの回答をいただければ、こういうところに注意して見ていただきたいと思います。

ということで、私は終わります。

○長谷川則夫委員長 続きまして、市民の声のどなたか。

○小田川敦子副委員長 小田川のほうから説明をさせていただきます。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 失礼しました。資料のほうは、「自治体におけるA I活用導入ブック」という書類になります。お開きください。大丈夫ですか。

まず、表紙が出てきました。「自治体におけるA I活用・導入ガイドブック」ということで、これは令和4年6月に総務省が作成したものです。その中から、A I活用に関するメリットについて説明をさせていただきたいと思います。

次のページをお開きください。

まず1行目のところを読みます。「導入の目的」ということです。「『自治体におけるA I活用・導入ガイドブック』は、実証実験の知見や先行団体の導入事例に関する調査等を踏まえ、A Iの導入を検討している、A Iの導入による効果や課題を知りたいといった行政職員の方々の疑問に答えるため、『自治体におけるA I活用・導入ガイドブック』を改訂したものです」ということで、全国的にもこういった効果の期待が高まっているところで、国としてもガイドブックをまとめて、各自治体に取り組んでいるというところでは。

次のページをお開きください。

「A I導入のメリット」ということですが、このページでは、右下、事例紹介の中で、黄色のマーカーをつけているところ、この効果について読み上げたいと思います。「音声ビデオテキスト変換ツール」、これが今回提案しているA I議事録の効果ということになりますけれども、概要としては、会議等でI Cレコーダーで収録した音声データ等をテキストデータに自動変換し、議事録作成を支援するもの。効果としては、1件の議事録書き起こしにかかる職員の対応時間が平均70分から30分に短

縮されたというような報告でまとめてあります。

次のページをお開きください。

「A I 導入の取組状況」ということですが、いろいろな種類がある中で、業務ツールの中の音声のテキスト化、声の選別による導入事例が多いということが全国的に分かっています。

次のページをお開きください。これは導入事例の目次ですので、ここも飛ばして、その次のページにお進みください。

青森県の事例報告ということになります。ここの効果について共有をしたいと思います。効果のところ、定量効果ですね、読み上げます。職員の文字起こしの作業時間は4割削減できた。外注した場合の委託料が削減できた。定性の効果としては、職員からは音声認識の精度やリアルタイム性への評価が高い。ただし、これは先ほど平田委員が説明されたように、機種様々いろいろな特徴がありますので、その点は導入となった場合には調査研究の対象になってくるかと思います。

その次のページをお開きください。

埼玉県の場合は県内で19市町が同様に足並みをそろえて取り組んでいるということの事例報告になりますが、ここの部分の効果について読み上げたいと思います。埼玉県が確認をしている効果としては、定量効果、会議等の会話内容がテキストとして残されるため議事録の作成時間が短縮された。やはりここでも作成時間が短縮されたという効果が認められています。ここの部分が導入に大きなメリットがあるということはやはり周知の事実かと思います。

その次のページをお開きください。

このページは、皆さんが今現在無料で受け取っていただける「ジチタイワークス」の中に既に掲載された紹介文になります。これは取手市の事例について報告をしておりますが、この後に取手市の報告もあると思いますので、この点は割愛をして、その先に進みたいと思います。

3ページほど進んだ先に、「自治体におけるA I 導入手順の構成」というところが、ページがありますので、そちらにお進みください。よろしいでしょうか。

では、進めます。ここでは国が進めるモデルケースとして、A I 導入を進めるに当たっての手順の構成ということで書き記しています。これは参考ということで資料をつけさせていただきました。その次のページからは、難解な言葉に関しての用語解説もありましたので、これも参考として掲載させていただきました。

以上をもって、A I 導入のメリットについての説明を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○長谷川則夫委員長 続きまして、日本共産党の方からお願いします。

徳本委員。

○徳本光香委員 今回3つの会派で同じ提案ということで、主に平田委員と小田川副委員長と私徳本でこの資料をそれぞれまとめたんですけども、私のほうはタブレットで言うと今の資料の1個前で

す。「A I 議事録資料」と書いてある青い四角いマークが載っている資料を開けてください。開けると資料2と書いてあります。よろしいでしょうか。

こちらについては、先ほどの説明とも少し連動しますが、一個一個説明することはしません。こちらはどういうふうを集めたかといいますと、本当に山ほどA I 議事録を活用している例とか、開発されている例があったので、主にベスト10とかベスト20とかというのを、それをたくさん見ました。それで、そこに複数出てくる、必ず出てくるようなもの、評価が特に高いと思われるものをまずピックアップしていったんですけれども、その上でも白井市で導入する上で大事だと思ったところを、資料2と書いてある下の米印のところに書いてあります。

これは資料の中でも各ページ見られるようになっているので見ていただければいいんですが、2個目の米印です。概要のところは何を書いたかということなんですけれども、私たちがこれをピックアップする上で大事にしたところ、①が特徴ですね、特に自治体で投入している例が多い。あと、民間会社が導入しているというアピールが多いものをまず1個、使えるのではないかとピックアップしています。

2つ目大事なのが音声認識率ということで、主に90%以上ですとか、音を文字化するとき間違いが少ないというのを、思われるものをピックアップしています。

3つ目が、やはり情報がきちんと固まる前に漏れたらいけないということで、安全性の面、ネットにつながっていないから外に漏れないだとか、ネットにつながっている場合でもこういった基準のセキュリティシステムを導入しているというようなことが確認できたもの、ホームページ上にそれをPRしているものをここに紹介しています。

4つ目も大事なんです、辞書機能です。取手市でも大事にしていたんですけれども、「委員長」と言った場合にお医者さんの「医院長」に一々文字化されては困るということで、一回議会用の専門用語を学ばせることができるかということで、できるものを中心に選んでいます。

全部いいものというわけではなくて、この一覧の中で1番と2番に関しては値上がりして執行部が導入は難しいと思った理由のもので、2番目は議会用のカスタマイズ、辞書が作れないということで却下したというものも念のため比較として載せています。細かいことに関してはこれから検討するかどうかを話し合うので、その上でこういったものも参考にできるかなと思っております。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ありがとうございます。

○平田新子委員 すみません、委員長、追加。

○長谷川則夫委員長 これに関しては、皆さん御承知のとおり、全員協議会の中で議会だよりのほうから要望書が出されて、その時の議長の発言として、それについては特別委員会のほうで扱うようにということがございましたので、今説明されたほかに議会だよりのほうから補足があればお願いをしたいと思っております。

平田委員。

○平田新子委員 すみません、議会だよりのほうでも御報告させていただきたいんですけども、その前に言い漏らしたのがあります。さっきの資料1の一番下、次のページにわたっていたので読み忘れたんですけども。

執行部と議会事務局、議会が同時に進行しなくてはいけないという強い御意見の方もいらっしゃるんですけども、これに関しては、市の導入と議会が歩調を合わせる必要は全くないということで、A I 議事録導入の取決めなどはありません。「必要であれば議会として決定いただき、さらに不足があれば追加予算を要求いただくことになると思います」という文書で回答をいただいておりますので、議会と執行部が同時にということは全く考えなくていいという認識でお願いしたいと思います。

じゃあすみません、先ほど同じ資料の中に、取手市の以前全協で入れていただいた資料を写していただきました。資料の5番目、議会だよりがこれは要望書を出して、単なる自分たちの勉強会ということではなく、議会事務局の方3名も一緒に来ていただいて、バスも調達していただいて、行政視察として行ってきたということで、これから御報告させていただきます。

次の資料の5の「議会改革視察概要」というのを御覧いただきたいと思うんですけども、最初上のほうはいつ行ったかとか誰が行ったかということで、取手市の担当者はどういう方だったかというのが書いてあります。

取手市でなぜこれを導入したかというのは、結構早かったんです。なぜ早かったかというのと、3つの自治体が合併することによって議員の数が物すごく膨れ上がり、1つ会議をしてもいろいろな意見が出て、議会ごとに規約が違ったりということで、いつも事務局の方は深夜まで作業に追われていた。もうこれは何とかしなきゃということで、平成18年からA I 議事録を導入し現在に至っていると。平成13年から17年の議事録、事務局専用辞書の2通りをまずA I に読み込ませ、誤字脱字がないように辞書を作った。その辞書に加えて、毎回毎回のブラッシュアップとして誤字率完成度が高くなってきており、辞書、ただ一回辞書を作ってもらったら終わりじゃなくて、年2回アップデートをしながら、あるいは音声データ、文字データを業者に渡してその都度新しくフィットしたものにしている。

実際の作業ということで、取手市はアミボイスというアプリを導入されているんですけども、この場合、パソコンは議場に1つ、それから事務局、事務所に1つ、最低2台と、あとネット環境。ネット環境、マイクは白井市でもありますので。それで、発言中にその発言がどんどん文字で上がってくるのを職員が誤変換だけをチェックしてというのがあらかたできて、それが会議が終わったときにはもう議事録が出来上がっているという状態にはなるそうなんですけれども。

これを正式に議事録というちゃんと印刷物としては6冊しか残していないそうです。この6冊を印刷するに当たっては最終的に細かいところも、誤字脱字いろいろなことをチェックするというので伺いました。

議会中に職員三、四人の人を要するというふうには伺っておりますけれども、白井市の場合は職員数がそんなに取れないと思いますということで、何かヒントをくださいと言いましたら、即日完成とせずとも、例えば二、三日ずれてその人数で確認できて議事録となったとしても、今のテープ起こし、録音して文字起こしをしてもらう2週間かかるというのに比べたら早く上がるんじゃないかということもおっしゃっていただきました。

また、職員が煩雑になる場合のみ、要するに議会中ということですよ、会計年度職員など、ほかの部署から応援を頼むというのも一つの案かもしれませんということで、これに関して私たちが勝手に決めることができないところではありますけれども、そういうお話をいただきましたということで。

○長谷川則夫委員長 荒井委員。

○荒井靖行委員 取手市に実際に私たちも視察に行ったんですけれども、その話の続きをさせていただきます。私のほうからは、費用対効果について御説明をさせていただきます。

大変恐れ入りますけれども、サイドブックの資料の中にあるパワーポイント、取手市資料05-01というのを御覧いただきたいと思います。恐れ入りますが、18ページをお開きください。

イニシャルコストとランニングコストが大事かと思えます。18ページ目にはリライターの導入、このリライターというのは実際の議事を文字に変える仕組みのことをリライターと言われております。

イニシャルコストで、ここで書いてあるのは取手市の場合です。議会事務局の配線とか、これは実際に記録を起す部屋と議場が別の部屋になっておりますので、このような費用がかかりましたということで載せています。実際には5年間で1,398万円かかりましたということになっております。当然これは取手市の場合でして、白井市の場合は別途検討が必要になるかと思えます。

それともう一つ、先ほどから話題になっている議会辞書、この辞書のソフトウェアを導入するに当たりまして、イニシャルコストとして5年間で460万円、いわゆる1年で払えないので5回に分けて払ったという具合に御理解いただきたいと思いますが、そのイニシャルコストが5年間で460万円かかったということになります。

次に、ページが少し変わりました、今度はランニングコストのお話です。

次の次、20ページを御覧ください。

ランニングコストなんですけれども、機材ということで、マイクとか支援システム、特にサーバの費用として27万円が計上されておりました。併せて議会会議録作成支援システムのパソコンを新たに導入したことによって、年間として6万円の費用がかかったということになります。

下のところが大事だと思います。システムの保守、先ほど申し上げました辞書の導入に当たっても費用がかかるんですけれども、毎年辞書をアップデートさせています。その費用として103万円毎年かかっているということでした。

ちなみに、タカハシさん、現地の事務局からの話なんですけれども、最近は新たな機械がたくさん導入されていますということで、この値段は今後どんどん下がっていく可能性があるというお話があ

りましたので付け加えておきます。

次です。次のページ、次なんですけれども、21ページを御覧ください。

どんな仕組みなんですかということも参考までにお話しします。実際の運用なんですけれども、議会の会期中に当日音声認識システムがほぼ9割を文字にしていますと。それに合わせて出てくる議事を事務局の方が1人ついて内容を確認して、そこで訂正をするということを併せてやっています。この当日で97%のいわゆる認識ができています。つまり、正しく文字化できているということになります。翌日以降、音校正とかをして、最終的には製本をしますよというお話がありました。

ちなみに、議事録の完成は当日中にほとんどできているということでございまして、いわゆるあのとき言った言わないとか、自分たちの話した内容の理解がちょっと違っているんじゃないかという確認ができるので、翌日の例えば委員長報告等に誤解なく利用できることが非常にメリットであるという御説明がありました。

それと、24ページを御覧ください。

ライター導入による労力のいわゆるメリットについてお話をいたします。平成17年度、18年度の3月に導入するんですけれども、いわゆる使用前という具合で見ると、時間外の勤務時間のトータルが948時間に対しまして、導入1年目におきまして311時間ということで、劇的に改善をしましたという報告がありました。これは白井市の例とイコールにはならないと思いますけれども、取手市の場合はこれだけの効果がありましたというお話がありました。

最後に、25ページを御覧ください。

導入によった成果をコスト的に評価したものでございます。17年度、18年度、使用前、使用后ということになりますけれども、費用的な効果ということで、今こちらのほうで御覧いただいているような効果が出たという御報告をいただきました。費用対効果については今申し上げたとおりでございます。

次に、もう一つ私のほうからお話をさせていただきます。導入によって発生した参加者の感想、これを一部御案内したいと思います。

ページは資料の2、「取手市A I 議事録の視察概要」のファイルのほうに変わります。05-02でございます。「議会だより会視察概要」、こちらのほうを御覧いただきたいと思います。

2ページ目です。一部抜粋してお話をさせていただきます。まずはA委員から、経費について、従前の録音テープ起こしとあまり変わらず、長期的には逆に安価になる可能性もある。次、作成期間、即日または二、三日中に議事録ができる期間の大幅短縮が可能となり、議会最終日の質疑、討論のほか、委員長報告作成への反映や議会だよりへの掲載が可能となる。さらに、定例会の期間の多少の短縮が図れるかもしれない。作業負担について、議員には何ら問題は発生しないが、事務局職員には集中的な負担を要することとなり、その点の課題解決は導入を前提にした場合不可避である。議会事務局職員各位にはこれまでもない御負担を生じることに対する覚悟をお願いしなければいけないため、

申し訳なさも感じているが、ぜひ前向きに対応願いたい。総合的に、中長期的には効果的なメリットは絶大、他方、白井市役所と導入時期や予算との協議も必要、単年度契約の原則も複数年度契約にできないか検討を願いたい。

次、3ページ目を御覧ください。C委員の話です。A I 議事録による利点が、議事録が早くできるという点ということは知識として知っていたが、会議中に発言内容を見返せることや、不規則発言の確認と削除も本会議中にできるほど早いと知り、白井市議会でも発言を正確に振り返りつつ話し合うために生かせると感じた。

D委員、A Iによる議事録作成は、今後白井市議会でも取り入れてほしいと思いました。議事録が出来上がるまでの時間が短縮されるのはいいと思いました。また、辞書機能の校正の仕事が障害のある方が自宅でも仕事ができるようになるという点は、障害者への雇用の拡大にもつながるという意味で将来性はいいと思いました。

次、E委員、第一に、会議録作成システムを活用し迅速に会議録を提出する仕組みを早期導入すべきだと痛感した。単に議員の耳だけではなく、議員が会議録を相互確認することによって誤解の解消に努める必要がある。議会だよりの短納期化よりも重要で、今後の議会運営には不可欠ではないかということです。

G委員、一番下です。議会会議可視化システムの導入には賛同します。議会への関心向上を支援する目的として、会議の全体像を全部表示の会議録よりも把握しやすくなるよう、会議発言上の文言は関係性を視覚的に把握できることはよいと。このシステムを白井市に導入することは、議会だよりの作成時間の短縮に期待できると思います。議会改革アドバイザーとして指導、養成の必要性は感じました。

以上、私のほうから補足説明をいたしました。以上です。

○長谷川則夫委員長 補足説明はまだありますか。

○根本敦子委員 はい。

○長谷川則夫委員長 じゃあすみません、ちょっと1時間過ぎましたので、休憩を取りたいと思います。

再開は11時15分。

休憩 午前11時03分

再開 午前11時15分

○長谷川則夫委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を再開します。

補足説明ということで、先ほど手が挙がりました根本委員、お願いします。

○根本敦子委員 荒井委員からも説明があったと思うんですけども、皆さん視察に行つて非常に感

動を受けていたというか。やはり議会の議事録をA Iで文字起こしをしていくということと、それから、一番びっくりしたのは、取手市では議会の発言が文字としてずらずらと、何ていうのかな、字幕で傍聴者の方、白井市議会の中では傍聴者の方はなかなか聞きにくいと、聞き取りにくいという声が多い中で、そういう声を聞くんですね。やはり字幕があればもっとよりよく傍聴できるだろうと思うのと。

あと、映像で配信されていて、そこでも字幕がつくということは、やはり聴覚障害のある方なんかにとってはもっと議会が理解できるような、そういう可能性があるなという感じをしました。

あと、皆さん感想の中でも、本当に議会が活性化するというところでは、この感想文を見て、読んでいただいて分かると思うんですけども、非常にメリットが大きいなというふうに思います。

あと、市議会の中でもいろいろところで文字起こしとかそういうのをやっていると思うんですけども、そういうのもこういうシステムを取り入れることで業務が短縮されるというところでは、今後労働力が不足する中で、ぜひこういうのを活用しながら仕事を改善していきたいなというふうに思いました。

○長谷川則夫委員長 今おっしゃった項目はまた、文字を、テロップというか、つける件については別件でやりますので、そのときもお願いします。

そのほかに。

徳本委員。

○徳本光香委員 先ほど言い忘れたんですけども、一番大事なことは、本当は市民のためになるという、一番早く情報を出すというところがまず大事なんですけども、皆さんが一番気になる、2番目かな、2番目に気になるのはコストだと思います。

白井市のことをちょっとおさらいしておきたいんですけども、先ほど私が説明した一覧に、抜けましたが、経費というのも当然書いてあります。おさらいとしては、予算特別委員会でも今年度の白井市の会議録委託料のことです。執行部も議会も合わせると1,000万円近くかかっている。全部調べたんですけども、一個ずつ。そうすると1,000万円近くかかっています。その中でも、市議会の本会議とかの会議録の委託料だけで598万円かかっているということで、半分以上です。

それも踏まえて先ほどの一覧の値段とかを見ていただくと、200万円とか何十万円というものもありますけれども、質のいいものを頼めば大幅なコスト削減になるし、もしよければそれに後から執行部の会議録もできる可能性も出てくるという面で、そのことを確認、御報告します。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ほかに補足説明ございますか。よろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 説明が終わりましたので、提案者もしくは議会だよりのほうに質問がある方がいらっしゃいましたら挙手をお願いします。

久保田委員。

○久保田江美委員 幾つか確認させていただきたいと思うんですけども、取手市のほうでは会議録というのは市議会のみで取り入れているものなのかというのが1点。

あともう1点は、ちょっと待ってくださいね、ごめんなさい。一応取手市で使っているもの、アミボイスというものなんですけれども、今回ここで取り上げるのは、平田委員はほかのいろいろ、何だろう、いろいろなものをしていくとは言っているんですけども、全体を考えて、市議会だけで取り入れるとアミボイスは私はトゥーマッチというか、少し市議会だけだと大き過ぎる、ランニングコストもイニシャルコストも結構大きいものなので、トライして入れるというにはちょっと厳しいものがあるのかな。

これがトライできるものなのか、トライというか導入を少し最初無料でじゃないけれども、そういうのができるものなのかどうかとか。あとは最初にやってみるんだったら無料でできるとか、もう少しコストが低いもので何とか。例えばこういうのだと、今見た感じだと、徳本委員の中に入っていたNottaとか、そういったもう少しこう、何ていったらいいんだろう、ちょっとトライできるようなものを考えているのかというのを少し聞きたいというところですかね。お願いします。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 今日提案するというところで、実際やっていただくかどうか決まっていないうところもあって、何か中途半端な答弁になって、やると決まったらきちんと調べてというところもありますので、その段階で言いますと。取手市においては市議会が先に導入したことによって執行部も。2つ入れる必要はないんですよ。市議会に1個入れたらそれが共有できて執行部も議事録が作れるというようなことで共有しているという話は聞きました。

それから、アミボイスがいいかどうか、ほかのものも含めてですけども、例えば市のほうが機械を入れて録音して翻訳して字に出ていくというのが、当初50万円でトライアルをやっていたんですよ。それで、これで年間やれるかなと思ったら、AIがどんどんどこもやるようになったら値段を上げてきて、200万円と言われたから、年間50万円だったら入れられたけれども200万円だったら予算要求ができなくなりましたとって、執行部は予算要求すら諦めたという経緯があるんです。

ですから、トライアルを無料でやるものとか多少有料であるものとかいろいろな種類がありますので、それは導入を決めて検討し始めてからということで、アミボイスが今どうかというところではお答えができません。

だけれども、1つのものを、これがすごく大き過ぎるものだとおっしゃいましたけれども、1つ入れたら執行部も共有できるということで考えれば、どちらが早いかも。裏の話、執行部のほうでは議会が先にやってくれたらそれはそれでありがたいとも言われたので、そういうところは今後考慮の余地があるかなと思っています。

ほかの方、補足で何か答弁ができる方あったらお願いします。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 無料でトライできるのかという点なんですけれども、今回資料をまとめるに当たって資料請求した会社から電話がかかってきて、「導入の経過はどうですか」とか、「無料でお試しもできますのでぜひ御利用ください」とか、「出張で説明に上がりますので」みたいな積極的なアピールは受けました。一応お断りはしていますけれども、こちらの状況がまだ決まっていないのでということで。

ですから、これに対して無料でトライできるのかというのは、調査研究の段階ではありますけれども、機種によっては無料のお試し期間というものもついてくる可能性はあります。

以上です。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 一言ですみません、先ほどの一覧でも見ていると、やはりみんな売り込みたいので、無料お試し期間2週間とかいっぱいありましたので、いろいろ見てみるというのはできると思っています。

○長谷川則夫委員長 荒井委員。

○荒井靖行委員 私が視察のほうから学んだことなんですけれども、今の質問に対してですが、市議会の範囲ということなんです、本会議及び委員会で行っていますよということです。

それと、機械を離れたところになりますと、災害が発生したときの災害対策会議の中継に活用したりとか、先ほどありました字幕スーパーの活用、こういうことを実際にはまとまりとして幾つかの機能を併せて買っているために、そういうものの応用をされているということでした。

それと、コストについては御指摘のとおり大変なことがあると思うんですけれども、実は取手市議会は議会だよりがこれをきっかけに廃止されたとおっしゃっていました。その代わりといっちは何ですかということで、QRコードで皆さんに見てくださいという具合にしたところ、かなり問題の指摘があるのかなと思ったら、意外にそういうことに対して文句を言う市民の方はほとんどいませんでした。要は、ウェブ上で作り込んだ内容なので、締切りもぎりぎりまでいけるので、このやり方は一石二鳥でできましたという報告がありました。

以上です。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 議会だよりをどうするかというのは別の問題だと私は思っているんですけれども。

先ほど中継に字幕をつけるとか、そういったものというのは、全てここで辞書を活用してカスタマイズした上でそれを流すかどうかで、例えばユーチューブの中で文字がつくのもあるんですけれども、それは物すごく間違いがいっぱい出てくるんです。あくまでも白井市議会として辞書を作らないと、それを何に振り向けるに当たってもこれが基礎になるということだけは付け加えさせていただきます。

以上です。

○長谷川則夫委員長 久保田委員。

○久保田江美委員 あともう1点、恐らく議会事務局の手間というか、そういったところも一つ問題なのかなとは思っているんですね。なので、本来で言えば何かちょっとトライしてみて議会事務局のほうで少しできるという形が多分一番いいのかなと思うんですけども、その辺がどういうところなのかなと思っています。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 今日の話合いというのはそういうこともやってみるかという話合いなんで、だから最終的に私としては、世界の流れでAIで議事録という本当に機械が得意な面について任せる方向に行くのはもう必然の流れというのは私より分かると思うんですけども。今回については、そういうことも含めて試してみるかどうかという話合いなんで、却下になるともう事務局の手間の確認すらできないんですけども、そういう確認も含めて一回いろいろやってみませんかというのが今回の提案です。

○長谷川則夫委員長 荒井委員。

○荒井靖行委員 御心配の点、御指摘のとおりだと思います。実際に視察に行ったときに、当時の永井事務局長が帰り非常にバスの中でうなだれていたもので、大変なんだなという具合に思いました。

しかし、タカハシさんのほうに実はこれを聞いてみたんですよ。そうしたら、実は一番やはり負担がかかるのは議会が発生しているときなんだそうです。そのときに1人が少なくとも張りついて内容を入れなくちゃいけない。でも、実際やってみただけですけども、その機械をやっている時間は逆に言うと議員が全部議場に入っていることもあって、意外と時間があるんですという具合におっしゃってました。意外と議会をやっている間は人の割当てという意味ではあまり心配する必要はないんじゃないでしょうか。私たちも非常に気にしていましたが、意外とやってみたらそうでもなかったなというお話がありました。

以上です。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 同じようなことなんですけれども、私たちは最初から議会事務局に負担がかかるという前提で、そこはこれからお話しをして、議会事務局が無理なくやれる形ということで、即日完成しなくても二、三日、間を置くとか、何か最大人員が10名ぐらいになってびっくりしたんですが、あれは10名を入れることではないにしろ、そこまで広げられる可能性は市のほうでも認められるということも含めて、一番御負担をおかけしないでやっていける方法はこれから探るということで、最初からそこは問題点として入れております。

以上です。

○長谷川則夫委員長 前提条件として、皆さんお話ししたかと思うんですけども、取手市の場合は議会だよりの編集は職員がやっています。ですから、その違いはあるんです。白井市は議員がやっ

ていますので、その違いはありますから、職員の数が当然違うんで一言では言えないと思いますけれども。

今、荒井委員のほうからも説明があったように、当初やはり言われたことは、白井市でやるには1日でやるのはかなり大変でしょうからという前提もいただいていますので、そのところは先ほど発言があったように理解をしていただきたいと思います。

ほかに御質問ございますか。

○秋谷公臣委員 ちょっといいですか。

○長谷川則夫委員長 秋谷委員。

○秋谷公臣委員 先ほど来、取手市というのが頭に残っているんだけど、例えば近隣の市町村、印西市、鎌ヶ谷市、同じぐらいの人口、例えば白井市は6万人ちょっとですけども、取手市はちょっと大きいんですが、同じぐらいの市、同じぐらいの議員数、それから同じぐらいの議会の年4回の議会なんですけれども、そういうところでそういうやっているところとか、こういうことを進めているんだという状況の、そういう情報があれば教えていただければうれしいんですが。

○平田新子委員 小田川副委員長の資料にありましたよ。

○柴田圭子委員 大網白里市が何とかと、荒井委員、言っていなかったっけ。

○平田新子委員 すみません、これは人口規模で人口が多いからやるとか少ないからやらないとかいう話ではないというのは、まずそれが1つ。

○秋谷公臣委員 それは分かります。

○平田新子委員 それから、私どもはやっていただけるかやっていただけないかも分からないところで、議会だよりとして伺ったのが取手市だというだけのお話で。全国自治体の中でというのは小田川副委員長の資料の中に出ていて、かなりの自治体が、結局もう人員不足になるとか、人ができるサービスを残すためには人がやらなくて機械で済むところは導入していきましょう、DX化、AI化していきましょうというのが一つのもう、何ていうのか、今やらないとしようがないようになっているわけです。議員の成り手だってこれからどうなるか分からない。執行部の職員だって、今回正職員がやはりたくさんほかに行かれてしまって会計の職員で補わなきゃいけない、そういう白井市の状況も踏まえて提案しているということで御理解いただければと思います。

○徳本光香委員 具体的にありました。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 先ほど私が説明した資料の中から紹介します。もし気になるようでしたら1個ずつタップしてもらおうとその会社に行くんですけども。例えばさっきのアミボイスというものと、私の資料だと4番にアミボイスというのがあるんですけども、2021年末時点で中央官庁、だから本当に政府ですね、政府を含めて自治体導入数450以上、これが会議録のシェアナンバー1ということなんですけれども。これ以外でも、8番のNottaというものも自治体を含めて700社の会社、山形県と

か県庁で入れているものもあつたりしますので、それぞれ見ていただければ売りとして書いてあります。だから自治体導入例はたくさんあります。

○長谷川則夫委員長 よろしいでしょうか、秋谷委員。

○秋谷公臣委員 はい。

○長谷川則夫委員長 ほかにございますか。

補足説明が終わりましたので、ここで大体一人一人意見をお聞きして、最終的にやるやらないを含めて判断をしたいと思えますけれども。

まず、秋谷委員のほうから。

○徳本光香委員 ちょっと。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 確認ですが、いきなりやるやらないじゃなくて、まずこれの検討を始めるかどうかということの意見ですよ。

○長谷川則夫委員長 そうですね、検討を始めるかどうかの判断ですから。

どっちからでもいいですか。では、秋谷委員から、すみません、お願いします。

○秋谷公臣委員 先ほど取手市のことからということで質問したんですけども、検討するのはいいんですが、全国には1,740からの市町村があるんで、ほかの市町村も含めて検討事項に入っているかどうか、その辺のところをまだ私自身は近隣市町村を含めてどういう具合だということも勉強もしていない段階なので、やるやらない決めるようにじゃなくて、検討事項ということで進めることについては別に問題ないんですけども。

例えばそれをじゃあ誰か委員を決めてやるのか、そんなような検討を進めるにしてもどんな検討をするのかということについては、ちょっと私自身今判断つきかねている状態なんで。検討するのであればどういう検討をするのかも分からないんで、ちょっと今は何とも判断つきかねているような状態です。

○長谷川則夫委員長 検討するとなればどんな、全員で協議するのか、何というの、分科会をつくって検討するのとかいうところまで入りますけれども、今日はそこまではいきませんので、了承していただきたいと。

○秋谷公臣委員 勉強するということであれば別に反対するも何もありませんけれども。

○長谷川則夫委員長 今後検討する、継続という考えですか。

○秋谷公臣委員 そうです。私はこういう話は継続して、皆さん納得したら進める。その前の勉強が、今日補足説明をいっぱいいただきましたので、それを含めて私自身も勉強しなきゃいけないんで、中途半端な意見ですけども、一応進めることについて別に反対するわけでもない。

以上です。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○石井恵子委員 委員長、ちょっと確認させてください。

○長谷川則夫委員長 はい。

○石井恵子委員 この会議の進め方なんですけれども、今この特別委員会でやるやらないを決めてから、やると決めたものについて検討していくという話じゃなかったでしたっけ。

○長谷川則夫委員長 そうです。

○石井恵子委員 そうですね。やるやらないも含めて検討していくじゃないですか。

○長谷川則夫委員長 やるやらないについてまず皆さんの合意を得た上で進めるという考え方ですから、今どうしますかということをお各1人ずつ聞いていますので、よろしいですか。

○石井恵子委員 で、今日はお二人欠席しているんですけれども、この欠席した状態で決定しちゃうわけですか。

○長谷川則夫委員長 欠席については欠席届を出していただいていますので、欠席した状態で進めるという方が多ければ今後進めますけれども、よろしいですか。

○石井恵子委員 欠席した人がいますけれども今日決めるということですね。

○長谷川則夫委員長 はい。

○石井恵子委員 分かりました。もう1回確認、ごめんなさい、やるやらないも含めて検討するかしないかですか。

○長谷川則夫委員長 いや、やるやらないをまず決めます。

○石井恵子委員 そうですね。

○長谷川則夫委員長 今後検討するかを決めてからやるという、この会議は出ていますので、前回の1-1と1-2もそういう進め方をしていますので、同じように進めます。

○石井恵子委員 そうですね。だから、1-1についてやるかやらないかを決めた上で。

○長谷川則夫委員長 上で今後進めていく。

○石井恵子委員 進めるんですね。だから今日はそれをやるかやらないかを決めるということですね。

○長谷川則夫委員長 決まればね。

○石井恵子委員 はい。

○平田新子委員 すみません、やるやらないかを決めるというよりも、このことがよく分かってなくてやるやらないか、分からないからやらないと決めちゃったら、この委員会は何なんですか。特別委員会は切るための委員会ですか。全部切ってきましたよね、今まで。だから、やるかやらないかは勉強してから決めたっていいはずだと思っています。

ということで、今日も切られる前に言っておかなきゃねということで資料を詳しく説明させていたいただきましたけれども、やはり今、秋谷委員もおっしゃいましたけれども、ほかの様子も見てみないととか、いろいろ今日の説明を聞いた上でこれももっと探ってみたほうがいいなというのも、全部ここ

で切っちゃうということですか。委員長に確認いたします。

○長谷川則夫委員長 最初に、私は皆さんの御意見をお聞きしますというときにその意見を言ってください。私が進めちゃってからその意見を言われて戻せません。よろしいですか。

○平田新子委員 ちょっと意味が分かりません。

○長谷川則夫委員長 だから、要は今私が皆さんにやるやらないのお話を個人に聞きますよという話をさせていただいていました。だから、それに待ったをかけて、じゃあ今日決めないでくれと。

○平田新子委員 そんなこと言っていません。

○長谷川則夫委員長 というお話があるんだったら、前もって言ってください。じゃないと戻さなきゃいけない。

柴田委員。

○柴田圭子委員 委員長ね、検討を始めるかどうかの意見をもらいたいとおっしゃっていますよね。

○長谷川則夫委員長 はい。

○柴田圭子委員 だからそれを聞いていって、だから秋谷委員は検討を始めるので勉強するのはいいんじゃないかと言ってくれたから、それでそこについてを今聞いているわけだから、やるやらないを決めるんじゃなくて検討するかどうかをまず決めてということじゃないですか。

○長谷川則夫委員長 検討するかどうかを決めていますから。

○柴田圭子委員 やるやらないここで決めちゃって、やらないになっちゃったらもう検討何もしないということ、全く何も変わらないということになってしまう。それでは議会改革の意味がないから、まず検討ぐらいしたらどうですかという話で、検討するのかどうかの御意見くださいと言ったと私は思っていますけれども。

○長谷川則夫委員長 検討するかどうかの意見をもらっていますから。

○柴田圭子委員 だから、秋谷委員はそのままそのことを受け止めて、勉強するのはいいんじゃないですかというふうに素直に答えてくださったと思っていますけれども。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 私も今の柴田委員と同じ意見です。そもそもこの特別委員会は会派から出された問題、課題に対して調査研究を進めるかどうかというところをセレクションするために、全員参加の特別委員会として構成をして進めているというふうな認識ですから。今指摘があったように、検討、調査研究に進みますかどうかというふうな御意見を今お一人お一人委員長は取られたという認識でいますので、AI議事録を導入するかしないかという極論の話では私はないという考えです。ですので、そこをもう少し共通認識をしっかりとって、お一人お一人調査研究をするかどうか聞いていただきたいなというふうに思います。

○長谷川則夫委員長 石井委員。

○石井恵子委員 この特別委員会が設置されたもともとの意味、そこから問題になるんですけども。

この特別委員会が設置されることになったのは、まず議運で特別委員会を設置しましょうという話になりました。でも、特別委員会を設置するに当たっては、議運でこういう提案に対してどうしますかとなったときに、広沢委員のほうからこれは特別委員会を設置してやったほうがいいという御意見が出たんですよ。そのときに議長のほうから、どうせ特別委員会をつくるんだったら全員が入って特別委員会をつくるべきだという御意見があったわけですよ。

広沢委員からは、こういうことを一つ一つ協議しちゃってから、さんざんみんなで勉強しちゃってからやるやらないの決を採ったら、やらないとなったら無駄骨になっちゃうでしょうと。だから、全部研究しちゃってからやるやらないを決めるんじゃないなくて、最初に特別委員会でやるのかやらないかを決定してから、やると決まったものについて特別委員会として引き続き検討していくというふうにしないと、さんざんみんなで勉強したのが時間の無駄になりますよねという話があったんですよ。

だからこの特別委員会は全員の議員で設置して、なおかつ提案者からはさらっとした説明だけではなく、提案者が徹底的に勉強してこれを皆さんに分かっていただきたいということで今日はこんだけの時間をかけて説明の時間を設けたわけですよ。それを聞いて皆さんがどう判断するかというのが特別委員会の意味だったんですよ。

だから私が今日3人欠席している中で決めちゃっていいんですかと言ったのは、その発言をした広沢委員も田中委員も岩田議長もいらっしやらない中で、そういう特別委員会の決め方をしちゃっていいんですかということなんです。

今、私の考えていた、今、申し上げたことと、小田川副委員長たちが先ほど申し上げたことは若干のずれがあるんです、若干のずれが。だけど、この若干のずれが後になって大きな事例になるわけです。だから、私は全員でもって特別委員会をつくったんだから、やはり全員がそろっていないと共通認識にはならないと思うんです。私が今申し上げただけでも違っていると思いますよ。

○長谷川則夫委員長 今の発言ですけれども、欠席者がいてもこの委員会は成立していますので、欠席者がいないから決議できる機関ではありません。

○石井恵子委員 であるならば、いいですよ、別に。だけれども、もう一回この特別委員会の意義を考え直してください。初めにつくったときは、何で全員が特別委員会のメンバーになったのか。採決ができる特別な委員会なんですよ。何を採決するか、皆さんがこうやって提案された内容をやるのかやらないのかまず決めるのがこの特別委員会の最初の役割だったはずですよ。やると決まったことについてどんなふうに行うか、調査研究をどんどん進めていいものを行うかというふうに決めていくというはずだったんですよ。やるかやらないかを調査研究して考えるのが特別委員会の仕事ではないはずですよ。

○長谷川則夫委員長 であれば、欠席者が一人でもいるとこの委員会を開けないということになりますけれども。

○石井恵子委員 委員長、私はそれを言っているんじゃないと思います。特別委員会の意味をもう一回考

えてくださいということを申し上げているんです。

○長谷川則夫委員長　ですから、そうなると、考えるとなると全員が出席していないとこの委員会を開いちゃいけないということになりますよ。

○石井恵子委員　そういったことを言っているのではなくて、それは委員長にお任せします。欠席者はちゃんと届けを出しているんだから今日採決しますよ、結構です、それでも。でも、今、小田川副委員長のおっしゃったことと私の認識が違っているわけですよ。ほかの多くの委員たちも、どっちなんだと思っていると思いますよ。やるかやらないかを決めてから調査研究に入る特別委員会だったのか、やるかやらないかは決めないまま調査研究を進めていく特別委員会だったのか、これは明らかに違いますから、ここははっきりさせてください。

○長谷川則夫委員長　平田委員。

○平田新子委員　石井委員がおっしゃるのは、議運でそういうふうにしたということですけども、ここは全員がいるんですよ。議運に参加した委員だけじゃなくて全員がいるところで、そういう決め方じゃなく調査をした上で、調査というのは勉強にもなるわけですから無駄な時間とは思っていない人が多いんです。例えば車を買うときに、車を買うと言って買うか買わないかだけ決めますか。車の性能だとか、どれぐらいのものが、燃費がどうだとか、いろいろ調査した上で買うか買わないか決めるわけですよ。何にも内容が分からなくてやるかやらないか決めるのは非常に乱暴だと思いますし、この特別委員会が設置された意味合いというのは、やるかやらないかだけを決めているというだけで、今まで幾つも提案されたの全部切られたというだけで。これも切られたらそれでおしまいですよねとって、今後提案されたプランというのは何もないわけで、これで議会活性化に白井市議会が取り組みましたとって市民は納得するでしょうか。これだけ研究して勉強もしてこういうことでしたということ初めて説明責任が果たせると思いますので、議運で決まったことが全てではない、全員でここで話し合っているということ優先していただきたいと思います。

○長谷川則夫委員長　先ほども言いましたように、2-1、2-2の考え方と同じ考え方を踏襲しますので、ここでまずこの項目について調査研究をするかどうかを決めてから、次の段階に、ステップに入っていくという考え方をします。ですから、この項目について検討するかしないかをまず決めて次のステップというふうな形になります。これは皆さん共通認識でよろしいですね。

○平田新子委員　確認です。今、委員長は検討するかどうかとおっしゃいました。石井委員はやるかやらないかとおっしゃいました。これは委員長が今まとめられたように、検討を進めるかどうかという認識でよろしいでしょうか。

○長谷川則夫委員長　この項目について今後調査しない、要は検討するしないが含まれています。ですから、やるやらないというところの判断、この項目について今後検討しないとなれば、この項目は調査研究もしないということになります。

○秋谷公臣委員　よく分かんない。

○平田新子委員 意味が分かりません。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 石井委員の提案は、今この場で提案の内容を導入するかしないか、要するにAI議事録を導入するかしないかを、今この会議の場で決めるという主張だと思うんです。一方、私のほうは、導入する前段階として私たち提案者の説明がありました、その後に皆さんからの賛同を得られたら調査研究をした先に改めて導入するかどうか検討の場を持ちたい、話し合いたいということだと思うんですよね。ステップが違うと思うんです。

今、委員長のほうは、導入という方向性もある中で、まずはもう少し掘り下げて議会としての調査研究に進みましょう、皆さんどうですかというふうに聞いているというふうな私は理解なんですけれども、これでよろしいでしょうか。

○長谷川則夫委員長 皆さんの中で、要は考え方が違うと結論を取れないので確認をしますけれども、まずは私の考えでは調査研究をするかしないかを皆さんに問いかけています。ですから、ここで調査研究をしないとなればこの項目については今後扱わないということになります。ですから、調査研究も今日出していただいたところの資料までで終わりと、調査研究をしないとなれば、するとなれば、今後どういったシステムがいいのか、白井市にとってどういうやり方がいいのかという話になってきます。よろしいでしょうかね。

だから、石井委員がおっしゃっている、やるやらないとなると、同じ答えになるかもしれませんが、調査研究は今後しないということになります。

柴田委員。

○柴田圭子委員 よく分からないのにやるやらない決めていいんですかというのがまた逆のほうであると思うんですよね。だから、どういうものだから、今日こういうふうに説明されたけれどもよく分からないんだから、普通にこういう流れ、世の中の流れにあるのはどうも確からしい、他の市議会でも結構導入したりもしているらしいという状況であれば、どういうことなのかというぐらいちゃんとそれぞれが把握して、その上でこれはちょっとどうかねというふうになるのか、もうちょっと進めてみないとなるのかというのが出てくると思うんで、今日でやらないと決められるのかなと、逆に。やるやらない、やらないだと全くこれで、はい、終わりになるわけでしょう。それで本当にいいのかなというのはやはり思うので、検討してみましようよという話のやってみませんかという話になるんじゃないのかなと思うんですけれども、どうでしょう。

○長谷川則夫委員長 今おっしゃったのは、私が今個人個人に問いかけましたけれども、その結論を次回まで持ち越してくれということですね。だって、先ほどの主張からいって……。

○柴田圭子委員 検討してみようか、やるかやらないかだと、やらないとなっちゃったらもうここで今日で打ち切りで、議会改革特別委員会はもうこれで終わりなんですよ。そうじゃなくて……。

○長谷川則夫委員長 だから今日結論出さないでほしいということじゃないんですか。

○柴田圭子委員 違うよ。だから検討してみますか、検討すらやりませんかということをお問うてるんじゃないんですか、長谷川委員長は。

○長谷川則夫委員長 いや、だから、私のほうで聞きたいのは、皆さんに検討していくのかしないのかを含めてお願いしているんで。

○柴田圭子委員 含めてだと、それだと、含めてと言うから分かりにくくなるんです。

○平田新子委員 そうです。

○柴田圭子委員 検討するのか、検討すらしないで切っちゃうのか、どっちかなんですかということをお聞きしたいんでしょうという。

○長谷川則夫委員長 検討するのかしないのかというお話を伺っているんで。だから、検討するんじゃないかという少し時間をくれという提案もあるかと思いますが。

○柴田圭子委員 調査すらできないのかという話です。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 私は先ほど「古澤委員」と回ってきたので、考えを述べようとは思っていましたが、皆さんの御意見を聞いて、石井委員の前回までの流れに対する把握というのは正しいと思います。確かにあのおりに流れてきたと思います。ただ、今日の説明を聞いて私自身もここでするしないを決めることはできないかなと考えておりましたので、もし小田川副委員長のおっしゃる通りに、検討するというときにこの委員会を持っていくのであれば、その修正というんですか。ただ、委員長の見解がどちらともはっきりしないのでどういう形になるのか分かりませんが、少なくとも皆さんの中で流れが当初の広沢委員の説明した時の流れと変えていいのだというコンセンサス、同意を取った上でしないと皆さん納得できないのではないかと思いますがいかがでしょうか。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 古澤委員の考えに賛同です。確かに石井委員がおっしゃったとおり、やるやらないを先に決めるからこそ後でどんでん返しが起こらないよねということで全員が入っているというの正しいと思うんです。ただ、確かにこの問題というのは、この説明も私たちは一生懸命調べたけれども、それだけでやるやらないというのを判断するにはあまりにも日進月歩で数も多いので、やはり古澤委員の言ったように、今回この項目に関しては判断つきかねるという人もいるけれども、やはり世界の流れ、秋谷委員の言ったことも正しいと思うんです。検討自体はしたほうがいいと思うという。

だから、やはりそこもやるやらないきっぱり最初に決めちゃいましょうということだったけれども、この項目は前向きに検討するかどうかという検討のところ、今回はまず一周意見を取って、それで方向性を決めるというふうにするのが一番今までの流れを無視せずに、だけれどもこのことについては検討するかどうかを話し合おうという納得が得られるかなと思いました。

○長谷川則夫委員長 伊藤委員、どうですか。

○伊藤 仁委員 AIを議会で導入して翻訳システムを運用したいという気持ちは分かります。分かりますけれども、今現況で委託で翻訳を出していますよね、事業者に。その事業者が当然AIを使ってやっていると思うんです。

○徳本光香委員 それで高いんです。

○伊藤 仁委員 それで高いというのは何でなのかということ、もうちょっとそれも含めて協議して、映像で配信しているんだからもう次の日には第1校正をこっちに出せとか、そういう要求をされているんですか。向こうの言いなりじゃなくて、もうビデオで放映しているんだからそれにAIを直接かけて、もう次の日には第1校正の議事録を上げてくれとか、そういった要請というのはできないんですか。事務局のほうでやったことありますか。当然事業者も今はAIでやっているはずなんで、こちらで次の日にできるのであれば、もう事業者だったらもっと簡単にできていると思うんです。それを事務局のほうで委託事業者のほうの内容をどういったふうにやっているんだかということも調べて教えていただきたいなという気持ちがあります。当然今やっている話合いを今日で判断しろというのはいささか無理があるかなというふうに私も思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 石原委員。

○古澤由紀子委員 私に聞かないの。さっきのは違うよ、進め方について言っただけであって。

○石原淑行委員 いいですか。いろいろ説明受けて、いい部分もあるのかなというのを感じた部分もありますし、今の議会に早急に必要なのかという部分も考えている部分もありますので。決めるということとなるとどうしても議会事務局の負担という部分が私もあって、負担かけるのを早急に今始めるのかという部分はちょっとどうかなと思っている状況です。

○長谷川則夫委員長 石田委員。

○石田里美委員 私は石井委員のおっしゃる意見に賛同します。ただ、AI議事録の導入については大いに検討すべき進め方だと思います。今日に至るまでも、この会議もそうですけれども、進め方が大事だと思いますので、決してこの内容に例えば頭ごなしに反対だとかという方は早々にはいないと思うんです。改革ということでこの特別委員会ができていますので、それを踏まえますと大いに検討すべき事項だと思いますので。今日の結論というのはなかなか難しいとは思いますが、最初の特別委員会の設置を考えますとちょっと矛盾は発生するかなと思いますけれども、検討することには大いに_____おります。

○長谷川則夫委員長 根本委員。

○根本敦子委員 私も検討して積極的に進めていくべきだと思います。

○長谷川則夫委員長 武藤委員。

○武藤美砂子委員 最初の特別委員会の決め方というところで、すごくどっちなのというところで私自身もちょっと今決めかねているところもあります。本当の特別委員会の意義、最初の決めた意義と

というのは何か違ってきているのかなと思うので、そのところがちょっと引っかかっているんですけども。AI技術もこれから日進月歩でいろいろと発展していくとは思いますが、この特別委員会の持ち方、進め方というところでもう一回しっかりと確認していきたいなというのは思いました。

○長谷川則夫委員長 久保田委員。

○久保田江美委員 私は、古澤委員がおっしゃったみたいに、やはり本当に石井委員がおっしゃった形で、今までは確かにやるかやらないか決めてきた。結構今までの議題だと皆さん見ただけである程度判断が付きやすいものだったと思うんですけども、今回のAI議事録というのは結構ぱっと出してもらっただけではなかなか判断が付きづらいものだと思います。なので、おっしゃったように、皆さんの同意を取らなければならないかなとは思いますが、検討するかどうかという形で、このことに関してはしていくのはいいんじゃないかなというのが私の意見です。

以上です。

○長谷川則夫委員長 荒井委員。

○荒井靖行委員 私は一言で申し上げると、検討すべきということです。本当は私は推進派なんですけれども、じゃあ白井市に当てはめたらどのぐらいの費用がかかって、どのぐらいの負担がかかるのかというのは、残念ながら今分からない状態ですよ。でも、やることを前提に、どのぐらいお金がかかってということが分かって初めて皆さんも判断できると思います。ということで、前向きに検討しませんかというのが私の意見です。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 私は検討結果でみんながやらないとなったらそれはそれでいいと思うんです。けれども、検討もしないでやらないというのはおかしいと思いますので、ぜひ検討はしていただきたいと思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 石井委員。

○石井恵子委員 私は検討していないことはなくて、今日もこれ十分検討なんです。この前も検討しました、これについては、1-1、1-2、1-3について御説明をしていただいた上で、この特別委員のメンバーみんな質問したんですよ。あのときたくさん質問が出たんですよ。その質問に対してじゃあ提案者がまた勉強してきますということで、今日出しているわけですよ。だから、かなり時間をかけているという思いはあります。ただ、もっと時間をかけてもいいのかなという思いもあります。つまり、今日は決められないんじゃないかなという思いです。

○長谷川則夫委員長 柴田委員。

○柴田圭子委員 分からないままやらないと決めるのではなく、ちゃんと中身、先ほどのね、どんなふうになるんだろうという具体的なイメージが、今日の説明とかでも、白井市に当てはめた場合ど

うなのかというのが今一番びんと来ない部分なので、やはり検討するというのはまずしてみなくちやいけない、何とも言えないと思うので、そういう意味での検討はしたほうが良いなと思います。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 検討する方向で調査研究に進めていただきたいなというふうに思っています。提案者といっても、実際に個人的にA I 議事録を使っている人いない人いると思うんです。手持ちのパソコン、タブレットでも簡単に文字起こしできるので、それからA I 音声認識の精度というものを感覚としてつかんでいる方もいらっしゃると思うんです。

だけれども、組織としてシステムを入れたときの精度はどうか、金額はどれぐらいかかるのかとか、マンパワーはどれぐらいかかるのかとか、さらに白井市のサイズで見積りとかいろいろしていかないと分からないですよ。

なので、社会の流れとかを考えたときには必要性を感じているというのは大体皆さんの感覚だと思うので、さらにそこをもう少し具体的に輪郭を浮かび上がらせるためにも、調査研究というプロセスは議会として必要な工程ではないかなというふうに私は思うので、検討する方向に賛成をしています。

○長谷川則夫委員長 ありがとうございます。今、皆さんからお伺いした意見……。

徳本委員。

○徳本光香委員 いいですか。すみません、一応提案者も皆さん発言しているので、私も最後に一言、検討をぜひしてほしいと思います。

伊藤委員からも、委託だと高い、さっき言ったように、1,000万円で半分以上が議会用です。委託でもっと安くできないのかという意見も出ましたけれども、それを言い始めてしまうとそもそも白井市が委託していること自体に物申すということになってしまいますし、必ずA I 議事録を使っていると思います、その会社は。でもやはりそこを介して委託することでの上乗せというのは必ず仕事として上乗せになってしまうから高くなるので、それを私たちが直接やった場合と同じレベルにできないかという注文はやはりあまり現実的ではないのかなと思うので。その話というのは、調べてもらうのは結構だし、それで半額になるというんだったらそこに委託すればいい話なんですけれども、やはり独自に研究してみる、検討してみるべきだと思います。

秋谷委員の懸念のように、じゃあ何人で研究するかとか、どこまで何を研究するかというのはその次で、すごく前向きでいいんじゃないかなと思いました。

以上です。

○長谷川則夫委員長 ありがとうございます。

伊藤委員。

○伊藤 仁委員 今、委託事業者について、半額にしるかそういったことを言っているんじゃないかと、事務局体制と委託事業との掛け合いで、もしそれがこちらでA I を独自にやると今度人員を1人増やさなきゃいけないとか、そういったことを含めてトータルで考えなきゃいけないんじゃないかと

いう発言です。

以上です。

○徳本光香委員 分かりました。

じゃあ最初に1個。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 ほかの委員からもやはり事務局の負担、お金のことはもう大分今までより安くなるのが皆さんに今日のプレゼンで分かってもらえたと思うんですけども、事務局の負担というのも、平田委員も何度もおっしゃっているように、こちらはそれを一番考えています。一番は本当は市民のことを考えているんですけども、やはり即日というところすごく大変、その場でリアルで直すといったら大変だけれども、今、何週間もかかって委員長報告が出てくるものを、外には出さないからそんなに誤字があったとしても私たちの議会だよりのために抜粋する分には90%の精密さでもいいわけですし、そこで職員が100%にするために徹夜するとかいう必要は全くないので、そういう負担を減らさずにそして安くするという方法をももちろん模索したいなと思っています。

○長谷川則夫委員長 ありがとうございます。今、皆さんから御意見を伺った中で、前向きにというのと、もう少し会議の中でという話が出て、どちらとも言えない状況ですので、結論はもう少し時間をいただきたいと思います。どちらにしても連休明けの調整になりますけれども、こちらから事務局の体制とか、ほかの何というんですか、3町の組合の議会とかいろいろ入ってきますので、その中で日程を組まないといけないので、いつになるか分かりませんが、なるべく早めに皆さんに連絡して、できるだけ多くの人に参加していただくようにしたいと思います。やはりここで決めたのが本会議になって否決されたのでは何なりませんので、そういう形を取らせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

平田委員。

○平田新子委員 先ほど伊藤委員から提案というか事務局のほうに問合せがありましたけれども、それも含めて検討したらいいと思うので、事務局はこうやってそれが幾らぐらいで上乗せされているというのも推測でしかないので、そういうところも含めてということで、そういう意見も切らずに進行していただきたいと思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 先ほど私が申し上げた最初の流れは、これを続けるかどうかという石井委員の説明によるものだったと思うんです。しかし、今現実に進んでいるのは検討するかどうかという意見も既に出ていますけれども、最初の委員長の捉え方は、検討するを含めてということでしたけれども、そうではない石井委員の解釈のような立場の委員もいらっしゃるわけですから、それをどちらに収れんして進めていくかということをもまずきちんと決めて、それから検討するという内容に進んでいかな

ければならないと思うんですけれども、今ただらだと検討するかしないかで流れてしまっ

○長谷川則夫委員長 最初に申し上げましたけれども、今やっている件については、検討するかしないかをまず決めてからやります。これでよろしいですね。やるやらないという話ではありません。検討を始めるかどうかの。

○古澤由紀子委員 じゃあやるやらないという形で流れてきたと主張している委員の意見はどうなるんですか。

○長谷川則夫委員長 だから、私の考え方としては、検討するかしないかを決めてからこの事業に対して進めていきます。よろしいですか。やるやらないを先に決めてくれと言うなら次回やるやらないを決めちゃいますけれども、そうじゃない意見も多かったの

○古澤由紀子委員 そういう意見があるわけですから。

○長谷川則夫委員長 それについてある、要は調査研究をするしない、あるいはやるやらないを決めてからやってくれという話を次回しますから、最初から。

○古澤由紀子委員 次回でなくてもきちんと一回けじめをつけたほうがいいと。

○長谷川則夫委員長 私は1-2と1-2と同じ考え方で、要は調査研究するかしないかで決を採りましたので、同じ考え方を踏襲しますよと最初にお話ししましたよね。

○古澤由紀子委員 そうですね。それから私が意見を言って、賛成してくださった方も何人かいて、じゃあするしないを決めるのではなくて、検討するかどうかということにしますかという合意の形成が一回取れていればいいですけれども。

○平田新子委員 取れていました。取れました。

○小田川敦子副委員長 取りました。

○古澤由紀子委員 取れていましたか。

○長谷川則夫委員長 取った。取って、2-1と2-2の決議をしていますから、その踏襲でやっています。

○古澤由紀子委員 私はそれが取れていないと思っていたんですけれども、石井委員はどうですか。

○石井恵子委員 多分言葉尻だと思うんです。私がやるかやらないかを決めてというのは、これは究極の言い方なんです。そうじゃなくて、長谷川委員長がおっしゃったのは、検討するかしないかを決めて、検討しないとなったらこれはもう今後検討しません、つまりやらないですという話なんですよね。だから言葉尻は違うんですけれども、結果的には言っていることは一緒だと私は判断しました。だから、検討するかしないかを決めますよ。つまり、検討するとなったらこれは進めて、これからも勉強していきますよ。でも、検討しないとなったらここで終わりですと、これから勉強することも調査研究することはありませんという、さっき委員長そうやっておっしゃったの

○古澤由紀子委員 じゃあ納得されているんですか。

○石井恵子委員 それで、言葉は違うけれども結果的には同じだなと思いました。なので、私は今日

をこの特別委員会をそもそもつくろうと言った委員が3人もいないので、その中でこれを決めちゃうのはよくないんじゃないかと思って、今日は決められないんじゃないですかと私は発言したんです。なので、言葉尻は違うけれども委員長が捉えているのと私は同じだなと思いました。やるかやらないかをまず決めますということでした。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 私は後になってまた同じような問題が起こると嫌なので確認しましたけれども、さっき違う考え方ということで石井委員もおっしゃっていましたが、その本人が納得しており、ほかの皆さんも納得しているのであれば、ここでコンセンサスが取れたものとみなすので結構です。

○長谷川則夫委員長 よろしいですか。

○平田新子委員 石井委員がおっしゃったような同じようなことですが、委員長はそれをちゃんと皆さんに確認した上で、皆さんがどうするかという回答をされていたので、コンセンサスを得られていると判断しております。

○長谷川則夫委員長 再度申し上げますけれども、今回はこの項目を引き続き行います。その中で検討するしないを含めてやっていきたいと思っておりますので、できるだけ皆さんに参加していただくようお願いを申し上げます。

それと、最後になりますけれども、皆さん共通認識を持ってください。特に委員会、常任委員会、特別委員会の生映像配信は行っていますので、録画中継については議運で引き続き検討する余地があるということになっていますので、共通認識を持ってください。この中ではやりませんので、よろしくお願いいたします。

○柴田圭子委員 やるやらないを次に決めるというのはちょっと早急なんじゃないですか。検討したらどうですかということで合意が取れたんだったら、じゃあどういう検討をしましょうかというふうに進まない、それで次の週にやるやらないというのは、じゃあ何をするんですか、その間に。

○長谷川則夫委員長 だから、今回はまずはやるやらないを最初に決めましょうという話ですから、そこから入りますよ。

○柴田圭子委員 違うでしょう。

○徳本光香委員 何で変わった、今。

○柴田圭子委員 _____話が変わった。

○長谷川則夫委員長 そこが認識が違うとなれば話が違うんで。

○柴田圭子委員 認識が違いますよ。検討するかしないを御意見を伺っていきますと今おっしゃったんですよ。

○長谷川則夫委員長 だから、今日伺った中ではまだ全員が合意となっていないので。

○柴田圭子委員 なったでしょう。

○古澤由紀子委員 全員合意ではない。

○石井恵子委員 全員合意ではない。

○徳本光香委員 今日の出席、今14人いますよね。その中で、14人いるうちの9人が検討はするべきと言ったんですよ、今日。それで、欠席者がいても会議は成立しているんですよ。14人中9人で特別委員会は採決ができるんでしょう。そうしたら、14人中9人なんですよ、半々じゃないんですよ。やはり疑問がある人も検討はしてみる問題だという人が9人なんだから、検討はするということなんじゃないかなと私は思うんですけども。その上で、本当にこれが反対で絶対駄目だと思う人がいるなら、その検討の中でみんなが納得しなきゃいけないわけで。検討する前にしない理由というのはあまり言われていないわけですよ。分からないという人ですよ、あとの人は。だから検討しないとはっきり言った人はいない中で、14人中9人が検討すると言った。あとの人は分からないと言った。あとは欠席です。

そうすると、自然な進行としては、やはり検討はしてみよう。その中で本当に懸念事項があるなら、さっきの委託のこととか、それも含めて除かずにちゃんと検討しましょうというのが自然だと思えますけれども。

以上です。

○柴田圭子委員 賛成。

○長谷川則夫委員長 今、進め方について言われましたんですけども、私の中では、今確かに前向きに検討したいというのを含めて9人いらっしゃる。そのほかの方はもう少し時間が欲しいとか分からないとかいう方を含めていらっしゃるわけで、欠席者が2人いるという状況の中で、後でどんでん返しが一番怖いですから、私としてはもう一度このことについてどうするかを聞きたいというお話を申し上げました。

それで、いや、もう前向きにという方が多いからというお話であるんでしょうけれども、もう少し時間が欲しいんですけども、いかがですか。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 先ほど一番最初に、私も混乱していたから2項目と思っていたんですけども、ユーチューブのことがありましたよね。あれを決めたからもうどんでん返しはないと。それちょっと誤解もあって、あの一部分はまだ決まってないんじゃないかみたいな話があったけれども、やはり決まっていたんですよ、ユーチューブのことは。だから今回もやはり進めてほしいですね。次といたらそれがどんでん返しになりますよ。今回の決定というのを決めたらどんでん返しは起きないですよ。だって皆さんがどんでん返しは駄目だと言って、最初にちゃんとユーチューブのことは却下は却下と納得したんですから、それは大丈夫だと思います。進めてください、何か月も調べてきたんだから。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 私たちが意見を言ったときは検討するかしないかということで、やるかやらないかという聞き方はされてないということでコンセンサスが得られているわけですよ。欠席をすると

というのは、本会議だってそうですけれども、もう一任します、いる人の御意見で決めていただいても構いませんということで欠席届も出されているんだと思って、欠席者がいるというのが駄目だったら、全員が出席できるときに委員会を開いてください。じゃないと今日の何時間が無駄になります。

ということで、一応検討するという人の御意見がこれだけあったことを背景に、休みの方にはこうということでここまで進みましたよと丁寧に御説明をいただいた上で前に進めていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○柴田圭子委員 賛成。

○徳本光香委員 そうしないとおかしいですよ、本当に。

○長谷川則夫委員長 私のほうで今日は議決をするつもりなかったんですけども。

○徳本光香委員 何で、だって何か月も準備してきたんですよ。

○柴田圭子委員 だったら全員がそろうときに集めればいい。

○長谷川則夫委員長 もう時間をくれというのは結構ね、意見があったので。

柴田委員、何かありますか。

○古澤由紀子委員 私です。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 私はさっき進め方で意見を言った後、自分が検討するほうなのかそれかしないほうなのかという意見を聞かれずに飛ばされたので、あれ、私は飛ばされたなどちょっと思いましたけれども。

○長谷川則夫委員長 私、ちゃんと振りましたよ。

○古澤由紀子委員 議会でも考え方を述べる討論と、議決をするときの表決というのは別のものですよ。だから、委員長が今日は考え方を聞いて、ほとんどの方が検討するというほうに意見が収れんされていきましたけれども、それは考え方を委員長が聞かれたのであって、先ほども議決するつもりありませんでしたとおっしゃっていましたが、本当に議決はしていないんだと思うんです。だから、特別委員会は全員協議会と違って議決を採れますので、はっきりさせる意味でも、次回議決するということは私は別におかしなことではないと思っています。

○長谷川則夫委員長 秋谷委員。

○秋谷公臣委員 私自身も先ほど意見を言いましたけれども、先ほど皆さんに聞いたんですけども、ほかの市町村とか、私は白井市ぐらいのところはどうなんだと、私自身もこれから1か月、何日あるか知りませんが、勉強して、これは検討に値しないなということになるかもしれませんし、取りあえずこの間勉強して、ほかの市町村はどうして検討しないんだろうか、進めないんだろうか、いろいろな意見があると思うんで。私自身はこれからも勉強して、今日皆さんがおっしゃるように大変いろいろな意見を聞いて勉強になったんですけども、これは個人的にほかの市町村がどんなふうに進めていてどんな検討がされて、何でやったところとやらないところがあったのか、その辺の勉強をさ

せてもらって、この次のときに判断に生かさせてもらいたいと思いますので、これから少し勉強させてもらいます。

以上です。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 これこそがどんでん返しだと思いますよ。先ほど検討すると言ったのに、私たちは何か月も、あなたたちに質問したんだから、今度また質問するからといって準備してきたんですよ。その間皆さんは何もしなくていいというわけじゃなかったし、資料だって前に出していますよ。それでさっき検討するのは必要だと言ったのに、流れを見て議決はしないというのは、それこそどんでん返しになってしまうと思います。

議決を採らない理由が分からないです。だってはっきり反対できる人がいないじゃないですか、今マイナス要素で。絶対にやったらまずいことになると言える人がいない中で、検討してみるというのは自然な流れですし、それで絶対にやると決めるわけでもないんですよ。同意を得た上で検討するかどうかの判断だということになったんですから、そのぐらいはやはり今日進めないとおかしいと思いますよ。どんでん返しを逆に認めるために今日は議決をしないというふうに見えます。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 私は今日議決をしないで次回に回してくださいと言っているわけではなくて。

○徳本光香委員 そうなんですか。

○古澤由紀子委員 そうですよ。皆さんに御意見を聞いて、それで議決の代わりにする必要は特別委員会だからではないかということをお願いしました。議決は議決で、全員協議会は議決はできませんから、皆さんの意見を順番に聞いてそれで委員長が動向を把握するわけですがけれども、特別委員会はきちんと議決の権利があるわけですから、決めるときはきちんと議決したらいいと思います。今日も3名いませんか、でも、定足数に達しているでしょうからできないことはないけれども、ただ議決するかしないかは長谷川委員長に任されていますので、私は次回でも構わないと申し上げただけです。そこは曲解です。私に言っているのかどうか分かりませんが、曲解です。

○長谷川則夫委員長 今、皆さんのお考えを聞くために一人一人にお考えを聞かせていただいたので、考えと議決は違うというのは確かにおっしゃるとおりです。

○古澤由紀子委員 そうでしょう、別にやっていいわけですよ。

○長谷川則夫委員長 荒井委員。

○荒井靖行委員 すみません、最後になって少し時間でいろいろな話が出ていると思うんですけども、私はこのように理解しています。最後に長谷川委員長のほうがこれから検討を進めますという具合におっしゃった後で、次回また検討するかしないかを決めましょうと言ったんで、結構皆さんが混乱されたのかなと思っていて。要は、この場ではまずは検討しましょうということで一旦今日は結論づけていただくということでいかがでしょうか。私はそのように理解をしたのですがいかがでしょうか。

か。

○長谷川則夫委員長 私のほうで検討しますとは言えないんですよ。申し訳ないんですけども、やはりこの委員会は決議機関ですから、決議をもって検討するしないを決めないといけない。ですから、そのやつを私としてはもう少し時間を検討していただいてからのほうがいいかなと思ったんで、今日議決をしないという判断をしましたがけれども、今お話を伺っていると、今日議決してくれという方が何人かいらっしゃるんで、今、私のほうとしてもちょっと考えているところですけども。

○徳本光香委員 今日の_____が何もなくなっちゃう。

○長谷川則夫委員長 石井委員。

○石井恵子委員 今までの経緯を考えてみますと、この特別委員会が組織されて云々は先ほど申し上げました。1-1から1-3までについては、一番最初に皆さんから御説明いただいて、若干の質問も出ましたが、私はあのときにもっと質問したいですと言ったと思うんです、自分で。2回目、もう一回また簡単な説明があったときに、提案者がお一人欠席されたのかな、か何かもあって、今日はできませんねというような話もあり。そのときだったかな、質問がたくさん出て、それについて皆さんがじゃあいろいろ調べてきますと、調べた結果を長谷川委員長に報告して、特別委員会を開く日にちを決めていただきましょうとっての今日だったと思うんです。

今日皆さんの説明を聞いて、その場ですぐにこれがおかしいあれがおかしいとは言えないし、いいですねとも言えないわけですよ。皆さんの膨大な資料を説明を聞いてなるほどなとは思ったけれども、それを受けて自分の中でもう一回のみ込みたいというのものもあるわけですよ。なので、今日説明は聞きましたけれども、ここで結論をつけるんじゃないかというもう少し考えさせてくれというのがさっきの秋谷委員のお話だったと思うし、そういう思いになった委員も、今日この場で説明を聞いたから、よし、じゃあどっちにしようかなと決められるというもんじゃなかなかないのかなと思うわけです。

先ほど委員長が、皆さんがどう考えるか皆さんの御意見が聞きたいということで全員発言になったと思うんです。だから、その全員発言は、何人が進めてください。何人が分かりません、何人が今日は決められないんじゃないかと言ったというだけでいいと思うんですよ。議決は、それからの判断は委員長の判断だと思うんですよ。その委員長の判断に対してそれは違うだろう、今日は議決してくれだのというのは、またそれは違う話だと思うんです。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 またお話が変わっています。最初はやるやらないを今日決めようと、今までいっぱい話し合ってきたから決められるとおっしゃっていたんですよ。それなのに今決められないとおっしゃるけれども。よくおっしゃっているじゃないですか、決めてください、進めてくださいという意見は結構会議で出てきます。もう今まで十分資料は出してきたし、今回質問にも答えられたと思いますから。今回別に、結論づけると今何度かおっしゃいましたけれども、結論づけるんじゃないんですよ。前向きに検討をまずしてみて、その中で懸念事項もしっかり話し合っていく、それをやろうと思うか

どうかという議決なので、そんなにこれが導入を決定するというふうには、その重大な判断というより、きちんと調べていきたいと思いますという議決なんですよね。それも今日進められないんではおかしいんじゃないかという意見です。

○長谷川則夫委員長 石井委員。

○石井恵子委員 徳本委員、申し訳ないんですが、それこそまたどんでん返しになっちゃうんですよ。検討しましょうというふうには今日決めて、じゃあ皆さんでいろいろ検討して、最終的に議決しますとなったときに、検討はしたけれどもやはり要らないなと思う委員がもし多かった場合に、それどんでん返しになっちゃいますよね。せっかくここまで勉強してきたのに、せっかくここまで研究してきたのにということにならないように特別委員会をつくりましょうという提案は、広沢委員や岩田議長からありましたよねという話ですよ。

○徳本光香委員 今どんでん返しのどんでん返しが起こったの分かりましたか。今回については恐らくどんでん返しは起こらないというか、それだけの資料を今出したと思っているんですよ。だから、その後懸念事項が出て、それは解決できる、特に事務局の負担というのは増えないような考えをもう持っているし、その策も既にあってお示しまでしているんです。予算も下がるとしているんです。だから、本当にまれなケースになる、これをひっくり返す場合は。だからその見通しを持った上で懸念事項も消していこうねという話なんですよ。

だから、もし検討し始めてみて、本当の本当に絶対白井市で導入したら駄目だってなったら、それは今回は最後の結論は最後に決めると決めたんだからどんでん返しじゃないです。今は最初に検討、懸念事項も含めて検討するという事になったんだから、その結果最後に決めるというのはどんでん返しじゃないです。議決しましょう。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 先ほど意見を求められて回ってきたときに言いましたけれども、検討した結果やめましょうだったらそれでいいと言いました。だから、検討することが今は大事なのであって、皆さんそれぞれ意見を言いましたし、欠席者もいらっしゃいますので、あとは委員長にきちんと整理していただいて、次回前に進む会議としてやっていただければ、私はもうここでいろいろ議論するよりも委員長に一任したいと思います。

以上です。

○長谷川則夫委員長 古澤委員。

○古澤由紀子委員 委員長に大いなる間違いがある場合は議論しますけれども、それはないので、委員長の権限で進めていただきたいと思います。

小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 まず議会活性化に関して特別委員会を立ち上げようとなったときに、じゃあその委員をどういうふうによぼうかとか、人数をどうしようかとなって、従来だったらこの中の何人

か、全員参加というのはまずもってめったにないことだと思うんですけども。そのことに関して、テーマに関して知識に差がある、明るい人と薄い方という中で、やりたい人だけが進めていくのは困るので、取りあえず全員参加で、共通認識も深めながら、そういうふうに調査研究に至るテーマかどうか審査していきましょうというのがそもそも特別委員会が立ち上がった最初だったと思うんです。それに関して、提案者側が時間をかけて資料を作って、特にA I 議事録は3会派があったから3人連携をして資料をまとめて今日に至ったという流れがあるんです。

あくまでも必要がないというふうにあるものも確かにテーマによってはあったかもしれないし、残った議題の中にもあるかもしれないです。ただ、3回目の今日提案を、説明をさせていただいた中で、まだ判断ができないとか、社会の流れから必要性はあるけれども実際どうなのかというふうなものが、気持ちがある以上は、ここで賛否で多数決で議会としてやらないというふうに行くには私はまだ早いのかなというふうに思ってしまうんです、どうしても。

最初、調査研究を進めるときに、具体的に進むときは全員じゃなくて分科会にするとかというふうな話も案としてはあったので、私としては皆さんに、皆さんが今日まで聞いた説明の中で、ここがもう少し知りたいとか調べてほしいというところも含めて、調査をするための研究会、プロジェクトみたいなのを進む方向で検討してほしいなという個人の思いがあって、今、言っています。だけれども、最終的には皆さんの合意の上で進めていくことが流れなので。

○古澤由紀子委員 議事の進行だから。議事の進行に関して。

○小田川敦子副委員長 議事は、進行は、会の多数決であったり合意であったりということには異は唱えられないけれども、どうか調査研究のほうに一步進めてくださいというお願いです。

○長谷川則夫委員長 要は今後の進め方について決まってから、分科会とかいうのはその後になりますよと最初に申し上げていますので御理解をいただきたいと思います。

それで、何かここでかなり会議が最後のほうになって混乱していますので、申し訳ございません。私の権限で、本日A I 議事録に関して、今後調査研究するかについてはここで採決を採らせていただきます。よろしいですね。御異議ございませんね。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 では、今後進めるか、進める方向、調査研究を進めるということについて賛成の方は御起立願います。

〔「検討するだよね」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 今後検討する、賛成の方は御起立願います。ちょっと確認をしたいので。

〔賛成者起立〕

○長谷川則夫委員長 賛成多数です。

よって、この項目については今後とも調査研究することに決定をしました。

ということで、次回についてはまた追って連絡をさせていただきます。長時間にわたりありがとう

ございました。

これにて第1回議会活性化特別委員会を閉じます。お疲れさまでした。

閉会 午後 0時35分

以上、会議の顛末を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和6年 月 日

白井市議会活性化特別委員会委員長